

## 【育種】 優良品種の育成期間の短縮

DNA マーカーや AI を活用し、栽培しやすく、おいしく、機能性等特色のある県オリジナル品種を短期間に育成

### ◆これまでの取組

多収、良食味で複数の病害虫抵抗性を持つばれいしょ品種「アイマサリ」や萎凋細菌病抵抗性カーネーション品種「ももかれん」のほか、びわ、夏秋小ぎく、はだか麦等の品種を開発し、普及が拡大

### ◆残された課題

効率的な選抜方法や複数遺伝子が関わる形質の改良、機能性向上などへの取組とあわせて、短期間で優良品種の育成が可能な技術開発が必要

### ◆今後の取組

国の研究機関や大学と連携し、DNA マーカーの開発・活用や AI 技術の利用等により、優良個体の効率的選抜や複数遺伝子が関わる形質の改良や機能性向上などに取り組み、従来よりも短期間に県オリジナル品種を育成



アイマサリ



DNAマーカーによる選抜